

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A・B中学校)

A中学校では、不登校対応巡回教員の勤務日に不登校生徒向けの放課後質問教室を実施している。これは、不登校生徒が教室に復帰するときの課題の1つとして「学習の遅れ」が挙げられることから、不登校を経験した生徒が学習への不安を解消するための取組である。現在は毎週数人ずつ来校し、担当の教員や校内別室指導支援員と一緒に各自が持参した学習課題に取り組んでいる。



#### 【取組2】(B中学校)

B中学校では、校長室の前の廊下に、生徒が休み時間に取り組みめるパズルなどを設置している。これらの道具は地域の方の協力によって準備された。授業の間の休み時間や昼休みなどに生徒が集まり、パズルに取り組む生徒の姿が見られる。

道具が散らばっていたら整理をする生徒もいて、生徒を褒めることにもつながっている。



#### 【取組3】(C中学校)

C中学校では不登校対応巡回教員が授業を見学し、「生徒指導の実践上の視点」を取り入れた授業ができるようになるための助言を行った。その中で、普段の授業の中で意識せずにできている部分を価値付けるような助言を行った。教員が、「生徒指導の実践上の視点」を意識した授業づくりを意図的にできるようになってきている。このように、各教員の日々の授業の良さを生かしつつ助言をした。

#### 【取組4】(B中学校)

B中学校では、本校が初任校の若手教員を中心に校内研修を行った。これを契機に、登校支援への関心が高まり、担任からの不登校支援に関する不登校対応巡回教員への相談が増えた。また、校内研修を機に、保護者向けの講演会の依頼を受け、保護者に不登校生徒への関わり方などを説明した。このように、校内研修を行い、「不登校」に関する意識を高めることができた。

## 多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

### 支援会議（A中学校）

A中学校では、毎週、登校支援に関する会議を行っている。その会議では最新の不登校に関する情報、研修等で学んだこと、他校での支援の様子、自校での支援の進捗などを伝えている。このように会議を活用し、次の支援につなげたり校内の登校支援に関する意識を高めたりした。

### アウトリーチによる支援（B中学校）

B中学校では毎週3人の家庭訪問を行っている。最初は当該生徒と会えなかったが、家庭訪問を続ける中で会えるようになった。現在は、給食に合わせた登校や放課後の進路指導のための登校など、それぞれが目標をもち始めている。毎回の家庭訪問後には関係する教員に紙面で報告を行っている。

### 校内別室における支援（D中学校）

D中学校では今年度より月曜・水曜・金曜の週3回校内別室を開室するようになった。開室にあたり、地域の方の寄付でソファやボードゲームのようなコミュニケーションツールをいただいた。この部屋を開設したことにより昨年度はほとんど登校をすることができなかった生徒が週3回登校できるようになった。教員は生徒のことを考えて服装や持ち物などのきまりを、個に応じた形で柔軟に適用している。また、教員が生徒へ定期的に関わりに来ることも、生徒の継続した登校につながっている。



### デジタル機器を活用した支援（E中学校）

E中学校ではVLPを活用して登校支援を行っている。生徒と学年の教員と不登校対応巡回教員がVLP内で面談を行った。なかなか登校できない生徒に関しては、こういったツールを使ったコミュニケーションが有効であった。



### 関係機関との連携（E中学校）

E中学校では給食センター、児童館、図書館などと連携をしながら登校支援を充実させている。学校以外でも関わることができる場所や人を増やすことで、生徒が成功体験を得るための機会を増やすことができる。そのため生徒の第一歩を大切に、「次」への自信につなげている。

## 成果

- ・各校で校内研修を行うことで、教員の登校支援に関する意識が向上した。
- ・不登校生徒の割合が5校とも減少してきている。

## 課題

- ・巡回担当校における不登校対応巡回教員の役割を更に充実させることができるように一層の情報共有を図る。